

第53回 日本薬剤師会学術大会北海道報告

千葉県学校薬剤師会
会長 畑中範子

令和2年10月10日(土)～11日(日)第53回日本薬剤師会学術大会が北海道札幌市で開催されました。

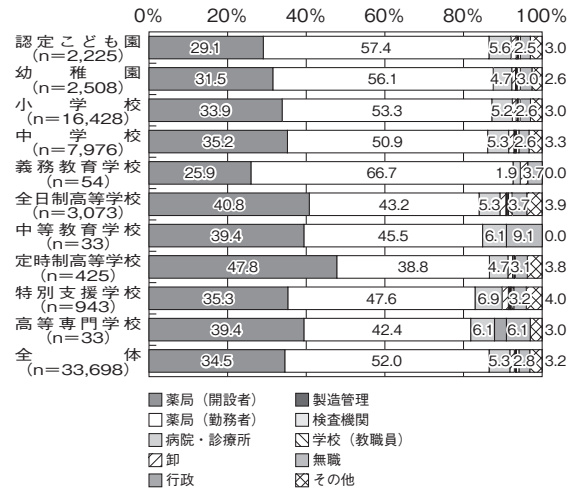
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止になるのではないかと心配されていましたが、新しい試みとして、Web開催を併用しながら、予定通り開催されました。

なお、開会式・式典、特別記念講演、特別講演、特別企画、分科会、共催セミナーはライブ配信されました。

今回、口頭発表10学校薬剤師で、「2019年度全国学校保健調査結果」を日本薬剤師会学校薬剤師会広報ワーキンググループリーダーとして報告致しましたので、報告内容の抜粋したものを掲載させていただきます(千葉県のデータも下に入れておきます)。11月には日本薬剤師会より全国学校保健調査結果(冊子とCD)を配布する予定です。

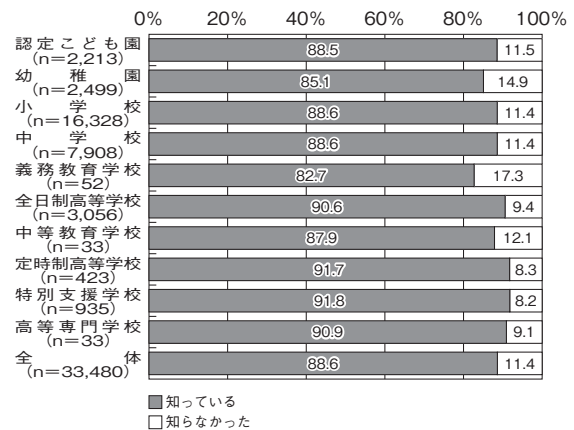
1-3 学校薬剤師の本務の職場

1-3 学校薬剤師の本務の職場について



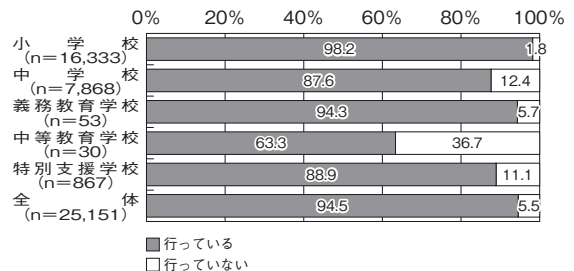
千葉県 薬局(開設者) 33.3%、薬局(勤務者) 54.1%、病院・診療所 4.5%、卸 0.2%、製造管理 0.2%、学校(教職員) 1.7%、無職 4.1%、その他 2%、行政・検査機関 0%

1-4 学校環境衛生基準が一部改正され、平成30年4月1日から施行されたことを知っていますか。



千葉県 知っている 92%、知らなかった 8%

A-1 学校給食を行っていますか

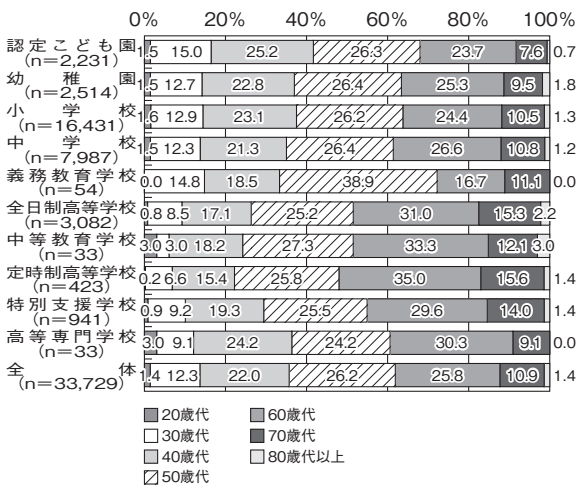


千葉県 行っている 97.3%、行っていない 2.7%

調査実施概要
 実施時期: 2019年4月15日付文書にて都道府県薬剤師会に依頼
 提出期限: 同 9月末日 (*最終的に同11月末提出分まで受領)
 調査内容: 2018年4月～2019年3月までの活動報告
 回答形式: マークシート形式(1校毎に1部、担当の学校薬剤師に回答頂く形式のため、1人で2校担当の場合は、2校分回答頂く形)
 実施方法: 調査対象は全国の大学以外すべての学校(52,015校)とし、調査票を都道府県薬剤師会等を通じ各校担当の学校薬剤師に配布した。最終的に34,126校から回答があった。そしてすべてのデータを学校薬剤師会広報WGが集計し、結果を取りまとめた。
 有効回答数: 34,042校

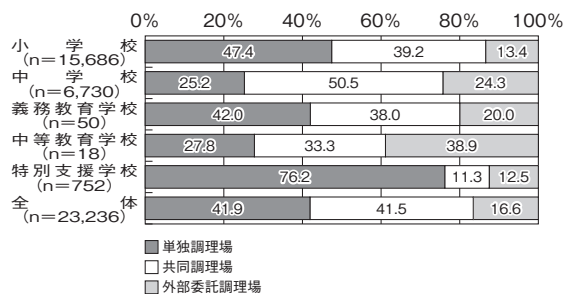
1-1 学校薬剤師の年代

1-1 年齢は何歳代ですか。



千葉県 20歳代 0.7%、30歳代 11.3%、40歳代 18.2%、50歳代 26.3%、60歳代 30.1%、70歳代 11.5%、80歳以上 2%

A-2 定期検査に協力した学校における学校給食の提供方法はどれですか。



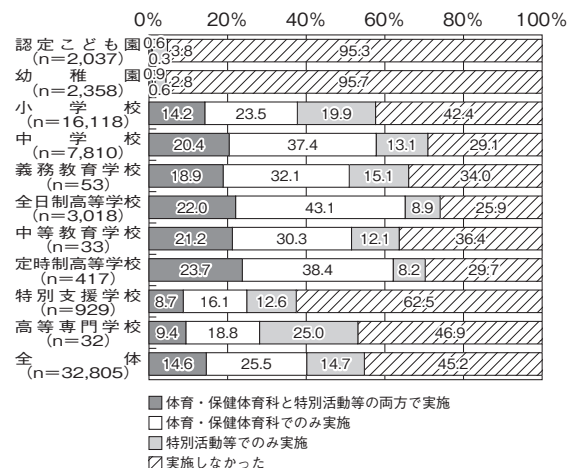
千葉県 単独調理場 46.8%、共同調理場 41.1%、外部委託調理場 12.1%

A-8 定期検査は、いつ行いましたか。(複数回答可)

	1. 調理中 (配膳中)	2. 調理 (配膳) 終了後	3. 配膳前	4. その他
小学校 (n=7,906)	20.1	51.0	14.6	16.0
中学校 (n=2,790)	17.8	46.5	19.8	17.6
義務教育学校 (n=16)	25.0	37.5	12.5	25.0
中等教育学校 (n=11)	27.3	36.4	9.1	27.3
特別支援学校 (n=544)	17.3	55.3	9.0	18.9
全体 (n=11,267)	19.4	50.0	15.6	16.5

千葉県 調理中 (配膳中) 15.8%、調理 (配膳) 終了後 46.5%、配膳前 32.1%、その他 13.3%
 なお、定期検査に行った回数は、3回 17.7%、2回 43.2%、1回 39.1%

B-1 医薬品に関する教育は行われましたか (学校薬剤師が関与していない場合も含む)。



千葉県 体育・保健体育科と特別活動等の両方で実施 9%、体育・保健体育科でのみ実施 33.4%、特別活動等でのみ実施 8.9%、実施しなかった 48.7%

【分科会 4】

避難所となる学校の環境衛生対策～災害時における学校薬剤師の役割～

「学校が避難所になる時」日本赤十字北海道看護大学 根本昌宏教授より、学校は宿泊施設ではない、大規模災害の場合、慣れない共同生活が長期に渡ることもあり、数多くの配慮が必要になってくる。それも、災害の種類、地域、季節によって、変えていかなくてはならない。コロナ禍の中で、3密を避けるために、分散避難が推奨され、避難所の他に、青空避難、車中避難、親戚避難、在宅避難、ホテルや旅館も避難場所になる。これらにはすべてにリスクがあり、災害関連疾患が増えている。減災対策に不可欠なキーワードは、TKB (トイレ、食事、生活環境) + W (加湿・暖房) であり、避難所からの健康を守る環境衛生に薬剤師も是非対応して頂きたいとお話されていました。

「災害時の学校環境衛生活動」熊本県薬剤師会 公衆衛生・学校保健委員会委員 江浦俊文先生からは、令和2年7月にあった豪雨災害での環境衛生検査について報告がありました。災害時における学校薬剤師公衆衛生活動マニュアルを災害フェーズを5つに区分して対応した。多くの避難所において、科学的根拠に基づいた環境衛生検査を行った。検査項目は、二酸化酸素、室温、湿度、粉塵、照度を測定し、粉塵が基準値を超えていた避難所があった。また、ベットの糞尿や騒音も学校側と協議した。

災害支援薬剤師と学校薬剤師の連携は、避難所の衛生管理を行う上で必要であり、日頃からお互いの活動を理解して、連携できる体制を作ることが必要をお話されていました。